

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

平成29年10月31日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
専門学校 九州ビジュアルアーツ		平成9年3月31日	福寛 洋祐	〒812-0011福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24 (電話) 092-474-9233			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062東京都千代田区神田駿河台2丁目11 (電話) 092-474-9233			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士		
文化・教養	映像音響専門課程	パフォーマンスアーツ学科		平成25年文部科学省 告示第2号	-		
学科の目的	エンターテインメントの世界で欠かせない「ショーアクター」や、「舞台・映像俳優」になるためのパフォーマンス、身体や台詞の表現方法を体得します。人に魅せるためのさまざまな訓練を重ね、舞台公演を通じて人前で演じることの醍醐味も体験します。学内外の多彩なイベントで、社会人として必要なコミュニケーション力も身につけることを目的とします。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920時間	768時間	1024時間	1856時間	0	0
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		26人	0人	2人	4人	6人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 各学科毎に試験、演習成果、出席状況等を総合的に勘案し行う		
長期休み	■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月20日～1月9日 ■春 季：3月20日～4月4日			卒業・進級条件	卒業規定単位取得 卒業制作合格の条件を満たすこと		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者は保護者面談を設ける			課外活動	■課外活動の種類 吹奏楽、野球など ■サークル活動：有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) プロダクション・芸能事務所・劇団・養成所・芸能業界 ■就職指導内容 履歴書指導・面接指導・マナー指導・プロフィールシート記入指導・オーディション対策・指導 ■卒業生数：13人 ■就職希望者数：13人 ■就職者数：11人 ■就職率：84.6% ■卒業者に占める就職者の割合：84.6% ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 10% 平成28年4月1日時点において、在学者30名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者27名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更や経済的な理由による場合もあるが、精神的(病気)な理由による退学が増加している。 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例) カウンセリング・再入学・転科の実施等 経済的な問題は、学費の延納や分納制度を設け、細やかな担任によるケアを行っている。 精神的な問題はカウンセラーを招き、精神面へのケアを行っている。						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.eggnet.ac.jp						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業等と定期的に会議等を通じて意見交換を行い、編成・改善を行う。協議内容は、授業教科目の名称や授業内容・方法の改善・工夫をはじめ、業界の動向をふまえ、働く為に必要とされる科目設定・授業内容等とし、授業方法は演習型授業（知識・技術）を主体に行う。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

学校教育法第133条、並びに学校教育法施行規則189条、及び学校法人Adachi学園理事会の決議に基づき、教育課程編成委員会を置く。この委員会は、教育の質の保証及び改善をするため、専門学校九州ビジュアルアーツの教育活動の状況に関する評価を行い、教育活動の更なる躍進の為活動をするものである。教育課程編成委員会で作された意見を基に、専任教員で行う学務会議で其々の意見を審議し、即時対応できるものは学科長がカリキュラムやスケジュールに落とし込む。校長及び学務責任者で、学科間の調整を図り、各学期の始めに行われる講師会及び各学科の分科会で、学校・学科の方向性を示し、授業に反映させていく。問題が生じた場合は、随時対応し、より良いものに変更を加えていく。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
本田 範隆	NPO法人 福岡パフォーミングアーツプロジェクト 理事長	平成29年6月1日～ 平成31年5月31日	①
大久保 恒	有限会社 夏書館 取締役 営業企画部部长	平成29年5月10日～ 平成31年4月9日	③
稲貴 洋祐	専門学校九州ビジュアルアーツ 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
大番 隆史	専門学校九州ビジュアルアーツ 学科長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
橋野 和正	専門学校九州ビジュアルアーツ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
田中 稔	専門学校九州ビジュアルアーツ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
喜馬 菜生子	専門学校九州ビジュアルアーツ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	
西村 つかさ	専門学校九州ビジュアルアーツ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催

第1回6月 第2回10月

（開催日時）

第3回 平成29年6月1日 17:00～18:30

第4回 平成29年10月5日 18:00～19:20

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

審議内容】①1年次に開催していた学内オーディションではトレーニング成果が発揮できないのではないかとのご指摘があり、次年度は、2年次開催を計画している。②学生たちを業界が求めている人材に近づけたい学校側と良い人材が欲しい業界との間の溝は、2.5年教育やオーディション、演劇公演などで埋まってきている。確信が持てる委員会での意見交換である。③オーディションで確認できる個人カルテの作成の提案がなされ早速、カルテ内容についての審議の後、プロフシートとして活用され始めている。 【要項

26】教育課程編成委員会では、其々の学科が就職ではなくデビューを目指すことからオーディションなどの学科共通の内容が多く、明確に学科単独での審議ではないように捉えられるが、アニメ・漫画・ナレーションについての指摘は声優学科の話がなされ、舞台・映像・演技を中心に提示される場合はパフォーマンスアーツ学科への指摘が入っている。

（別途、以下の資料を提出）

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

俳優としての技術向上を目的とし

- ・演技表現基礎・・・舞台演劇、映像出演を目的としているため、台本を使用し表現の技術向上を図る
- ・歌唱・・・発声、滑舌、劇中での歌唱。俳優として必要な技術を身につける
- ・ダンス・・・リズム感、体力向上、劇中での踊り、俳優としての体作りを目標とし、実習型授業を運営。公演発表があり、演技スキルアップを図っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

専門技術を要するため外部の講師を依頼。表現・技術・体力の向上を図っている。現役の俳優からの指導のもと、実践的な内容で授業を運営。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業研修Ⅰ	舞台出演を機会を多く作り、演劇表現の可能性を模索する。	劇団go to

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教育の質を客観的に保証するために、経済・産業界・放送業界の動向・人材需要に即し、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術を教授すべく適切に教員に対する研修等を、教職員研修規定により行なう。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

2016年6月17日～19日 篠栗研修

6月 ユニバーサルスタジオジャパン 舞台監督・演出家・鈴鹿 貴規様 公演

2016年9月 東京研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

国の定める足場に関する安全対策研修

2016年9月21日「個性心理学セミナー」JISD個性心理学協会スタイルクリエイト 講師:麻生有花 主催:九州安達学園

2016年11月25日第一回人権・同和研修会 福岡県専修学校各種学校協会主催 福岡県人権研究所理事・加藤陽一氏による人権同和研修。「インターネットと人権」と題し、仮想(バーチャル)社会の人権～危機管理の大切さについての研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

2017年6月17日～19日 合同合宿

6月 ユニバーサルスタジオジャパン 舞台監督・演出家・鈴鹿 貴規様 公演

2017年9月25日～29日 東京研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

2017年7月20日「人権・同和問題企業事業主研修会」福岡市民会館 主催:福岡市人権・同和問題企業研修推進会議

2017年11月「第1回人権・同和研修会」福岡県専修学校各種学校協会主催

2018年2月「第2回人権・同和研修会」福岡県専修学校各種学校協会主催

(別途、以下の資料を提出)

* 研修等に係る諸規程

* 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)

* 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、卒業生、企業等の関係団体、地域住民などの専門学校と密接に関係するものと理解促進や連携協力により学校運営の改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の教育理念・目標の設定、学校の特色、将来の構想
(2) 学校運営	運営方針・事業計画の設定、運営方式・意思決定の効率性、人事・賃金の制度 情報システムによる業務の効率化
(3) 教育活動	教育目標・育成人材像の方向性、カリキュラムの適正さ、キャリア教育の視点での教育方法か、授業の評価体制、資格指導体制
(4) 学修成果	就職率・資格取得の向上、退学率の低減
(5) 学生支援	就職支援の体制、学生寮・生活環境・健康面の支援状況、保護者との連携、卒業生支援
(6) 教育環境	施設・設備の整備状況、防災に対する体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動の適正さ、入学選考の適正かつ公平さ、奨学金制度
(8) 財務	財務基盤の安定さ、予算・収支計画、会計監査、情報公開の整備
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準等の遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価の実施問題、結果公開
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源、施設を利用した社会貢献、学生のボランティア活動奨励
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会の招集案内時に「前年度の自己点検・自己評価報告書」を事前配布しておく。当日、学校長より概要説明を行い、委員の評価並びに意見を伺う。そこで出た意見等を真摯に受け止め、より良い学校運営を図るため、それらを学校運営全般に反映させるよう努めている。

例えば、昨年より取組が行なわれている2.5年教育の成果が出ており、就職率が上昇している。面接ではできていたのに就職後、挨拶などの社会人としての基本的な事ができないコミュニケーション能力の低い学生が見られるとの指摘があった。コミュニケーション能力を高めるためのカリキュラムを取り入れてはどうだろうかとの意見がでた。進路指導担当と話し合い、カリキュラム検討中である。また、インターンシップに行く学生のやる気が低く、学校側と学生・学生と企業側のモチベーションのギャップが大きい。履歴書だけではわからない学生の個人シートなどが別途あると就職受入れ側としても指導しやすいとの指摘があった。今までの評価表とは違い、モチベーションアップや今後の指導に繋がるような評価シートを導入していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
平田 章裕	福岡県洋菓子協会 (副理事) ロンボワン代表	平成29年11月1日～ 平成31年10月31日 (2年)	業界・団体
後藤 大輔	税理士法人 アーク・パートナーズ 代表	平成29年6月1日～ 平成31年5月31日 (2年)	会計士
荻田 英二	(株)荻田商業建築デザイン事務所 (代表取締役社長)	平成29年11月1日～ 平成31年10月31日 (2年)	卒業者
田中 誠二	ホテルセントラザ博多 副総支配人	平成29年11月1日～ 平成31年10月31日 (2年)	卒業者
福島 眞祐	福岡市博多区博多駅前3丁目2区 自治会会長	平成29年11月1日～ 平成31年10月31日 (2年)	地域自治体
藤 厚久	博多女子高等学校 教諭	平成30年9月1日～ 平成32年8月31日 (2年)	高校進路
小川 倫恵子	アミ・シュプール (美容・鍼灸エステ) 代表	平成30年6月1日～ 平成32年5月31日 (2年)	企業
溝江 多佳子	(有) フラワーパーク (代表取締役社長)	平成30年9月1日～ 平成32年8月31日 (2年)	企業
吉塚 正希	(株)映像ボックス (代表取締役社長)	平成30年9月1日～ 平成32年8月31日 (2年)	企業
長田 言志	株式会社T00・福岡支店・支店長	平成30年9月1日～ 平成32年8月31日 (2年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

ホームページ URL: <http://www.eggnet.ac.jp>

平成29年11月

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、企業等の学校関係者に対し、当該専門学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し説明する等の理解を得るため取り組むを行う事を基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育理念・目標の設定、学校の特色、将来構成
(2) 各学科等の教育	教育目標・育成人材像、カリキュラム、授業評価体制、資格指導体制
(3) 教職員	別組織図による
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の流れ・指導方法、実践教育実施内容
(5) 様々な教育活動・教育環境	イベント、ボランティア、コンペティション等実施活動及び実習施設
(6) 学生の生活支援	寮・アパート情報、健康診断実施状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、各種奨学金等
(8) 学校の財務	請求があれば提示
(9) 学校評価	評価項目、評価集計
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.eggnet.ac.jp>

(別途、以下の資料を提出)

- * 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	タナカ ミノル	所属部署	学務事務
	氏名	田中 稔	役職名	事務長
	所在地	〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24		
	TEL	092-474-9233	FAX	092-474-9360
	E-mail	m.tanaka@eggnet.ac.jp		

(備考)

・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7についても同じ。)

授業科目等の概要

(映像音響専門課程パフォーマンスアート学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			著作権知識	コンテンツ制作の裏側に発生する権利「著作権」についての深い理解。	1前	32	2	○			○		○		
○			社会性 基礎スキル	業界・社会にて貢献する上で、専門技術ではない人間的スキルの向上を図る。	1前	32	2	○			○		○		
○			言語基礎Ⅰ	役者・声優として正しい発声・滑舌 アクセントを実践しながら学ぶ授業	1前	64	4		○		○				○
○			台詞演技Ⅰ	台本を深く考察・読み込み発表 感情とセリフのコントロールを学ぶ授業	1前	64	4		○		○				○
○			舞台演技Ⅰ	演者として舞台を経験 与えられた台本で役作り～本番に向けての授業	1前	64	4		○		○				○
○			演技基礎Ⅰ	発声・滑舌・セリフ演技 インプロビゼーションを取り入れながらの授業	1前	32	2		○		○				○
	○		インプロゲーム	表現をする上での心と体の準備。現場にて即 コミュニケーションと行動ができるようにする。	1前	32	2		○		○			○	
	○		映像演技Ⅰ	舞台とは違う、カメラを通した場合の演技に ついてを実践的に学ぶ。	1前	64	4		○		○				○
	○		表現ゼミナールⅠ	演出家の講師陣による演技指導 舞台公演に向けての徹底実技指導	1前	64	4		○		○				○
合計				9科目		448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件は卒業規程単位の取得・卒業制作の合格条件を満たすこと。 履修方法は各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(映像音響専門課程パフォーマンスアート学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ホームルームⅠ	学生への連絡、学生間の連絡や、イベント企画、オーディションなどを紹介。	1通	64	4	○			○		○		
○			演技表現	演出家の講師による表現の授業 台本をもとに演劇公演を目標設定し 表現を研究する	2通	128	8	○			○			○	
○			ホームルームⅡ	学生への連絡、学生間の連絡や、イベント企画、オーディションなどを紹介。	2通	64	4	○			○		○		
○			著作権知識Ⅱ	コンテンツ制作の裏側に発生する権利「著作権」についての深い理解。	1後	16	1	○			○		○		
○			SPI	就職活動時の筆記試験における対策授業。	1後	32	2	○			○			○	
○			リクルートナビゲーションⅠ	就職活動における身だしなみや立ち振る舞い、言葉遣いを学ぶ。	1後	16	1	○			○		○		
○			リクルートナビゲーションⅡ	身だしなみや立ち振る舞い、言葉遣いの修得を踏まえた上で、模擬面接練習に特化した授業。	2前	32	2	○			○		○		
○			文章	思いを瞬時にまとめ、言葉・文章に表すための思考整理方法を学ぶ。	2前	32	2	○			○			○	
○			作品研究	映像作品を通して新旧含めた作品の鑑賞 演技の研究・制作側の意図を読み取る	2後	64	4	○			○		○		
合計					9科目		448単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業条件は卒業規程単位の取得・卒業制作の合格条件を満たすこと。 履修方法は各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(映像音響専門課程パフォーマンスアート学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			言語基礎Ⅱ	役者・声優として正しい発声・滑舌 アクセントを実践しながら学ぶ授業	1後	64	4	○		○				○	
○			台詞演技Ⅱ	台本を深く考察・読み込み発表 感情とセリフのコントロールを学ぶ授業	1後	64	4	○		○				○	
○			演技基礎Ⅱ	発声・滑舌・セリフ演技 インプロビゼーションを取り入れながらの授 業	1後	64	4	○		○				○	
○			アフレコ基礎Ⅱ	発声・滑舌・マイク前での基礎知識 台本の読み込み・立ち回り技術の授業	1後	64	4	○		○				○	
○			表現ゼミナールⅡ	演出家の講師陣による演技指導 舞台公演に向けての徹底実技指導	1後 2通	192	12			○	○	○		○	
○			演劇ゼミナール	1日通し授業 役者としての演技力の向上と同時に 演劇公演に向けた授業	2通	256	16			○	○	○		○	
○			朗読ゼミナール	1日通し授業 朗読劇を繰り返し行う中での声での表現力を 向上させる	2通	256	16			○	○	○		○	
○			ラジオドラマ ゼミナール	1日通し授業 ボイスアクターとしての演技力の向上を番組 制作の工程とともに学ぶ	2通	256	16			○	○	○		○	
○			演技表現	演出家の講師による表現の授業 台本をもとに演劇公演を目標設定し 表現を研究する”	2通	128	8	○		○				○	
合計					9科目		1344単位時間(84単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件は卒業規程単位の取得・卒業制作の合格条件を満たすこと。 履修方法は各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

〈映像音響専門課程パフォーマンスアート学科〉平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任		
○			スタッフワーク	大道具・小道具・衣装・制作の舞台準備等の基礎知識	2通	128	8	○		○				○		
○			アフレコ表現	マイク前での立ち回りや台本の読み込みクールごとに課題の作品をする	2通	128	8	○		○				○		
○			企業研修 I	企業での実務研修・インターンシップ実施	2通	448	28			○	○	○	○		○	
		○	企業研修 II	企業での実務研修・インターンシップ実施	2通	448	28			○	○	○	○			
合計															4科目	1152単位時間(72単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件は卒業規程単位の取得・卒業制作の合格条件を満たすこと。 履修方法は各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。